

きそがわ福祉会だより

地域の中でともに育つ事業所めざして 2019年5月15日発行 No.108

第27回ほのぼのまつりが開催されます！

ほのぼのまつり

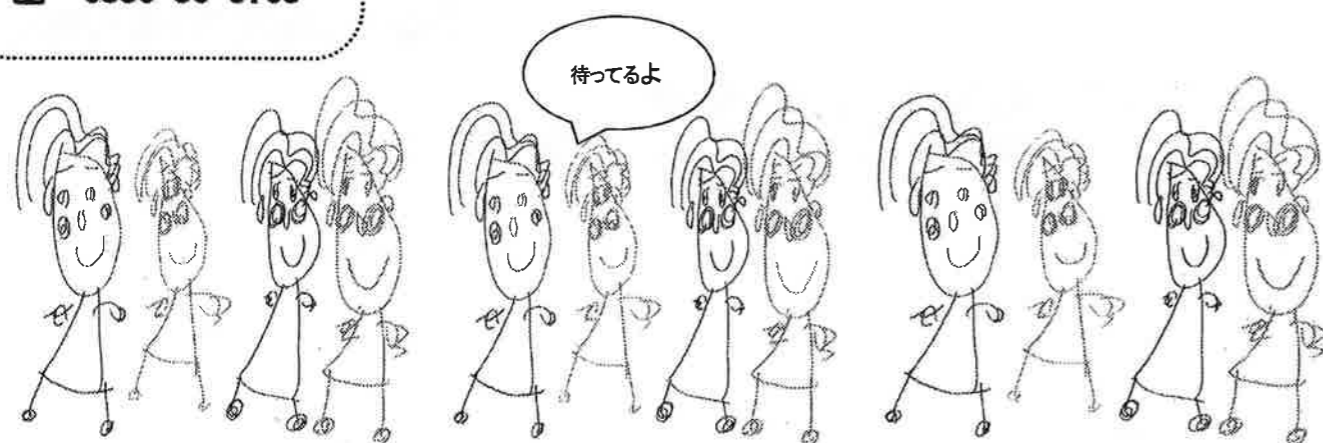
令和元年6月2日(日)雨天決行

10:00~15:00

場所/きそがわ作業所とその周辺

ボランティアさん
募集中！！

連絡先：きそがわ作業所
☎ 0586-86-3763



発行：社会福祉法人きそがわ福祉会

〒493-0006 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り12番地3

電話 0586-86-3960 FAX 0586-86-3937

3月10日(日)にきそがわ福祉会

たくさんの方にご来場頂き、誠にありがとうございました！

何とか晴れてくれないかという関係者一同の必死の祈りも空しく、1週間前からの雨予報がピタリと当たり…当日はあいにくのお天気でした。しかしそんな中でも朝早く開場前からお待ち下さっていた方もいて、たくさんのお客様に足を運んで頂く事ができました。またお忙しい中、一宮市長中野正康様、きょうされん常任理事大野健志様、元木曾川町長山口昭雄様に来賓として御出席頂きました。あたたかいご祝辞を頂き、仲間のステージやスライド・映画を御観覧頂きました。ありがとうございました。



みんなで歌った仲間の大ステージ!!



メインの企画の1つ、法人内の通所部門の仲間の大ステージでは、午前4施設、午後3施設ずつステージに上がり、きょうされん全国大会 in あいちのテーマソングでもある「高く飛ばそう」を元気に歌い上げました。毎年のほのぼのまつりでも、とてもパワフルなステージを披露する仲間たちですが、今回は、皆が集まっての大舞台。本番に強い仲間たちが燃えないはずもなく、会場中を巻き込んで大きな手拍子の中、見事なステージを披露してくれました。曲の最後のガッツポーズを高々と決めて、拍手につつまれステージを降りていく表情は、なんだかいつもより自信に溢れているようでした。仲間たちのパワーは本当にすごい！と改めて感じたステージになりました。



「感動した!!」「勉強になった!!」等の声 映画「星に語りて」と「夜明け前」の上映会

映画の上映では、東日本大震災と障害者をテーマにした「星に語りて」と100年前に精神障害者の処遇改善を訴えた呉秀三さんをテーマにした「夜明け前」を上映しました。どちらも、きょうされんの40周年を記念して作られた映画になっています。特に「星に語りて」の方は3月6日のリハーサルの時点ではまだディスクが焼きあがっておらず、上映ができなかった程でたてほやほやの作品で、今回の記念企画での上映では、全国に先駆けての上映会となり、同じ日の北海道での上映会と並んで、全国で最も早い上映となりました。当日観覧頂いた皆様からは、「涙が止まらなかった」「全国の映画館やテレビなどでも上映すべき」



「考えさせられた」など、本当に高い評価を頂きました。

また、きそがわ福祉会では、今後も、地域の学校や施設などで上映会を行い、この映画を普及し、地域の皆様と共にこの地域の防災力や福祉の向上に資する事ができれば、と考えております。(※その後、今回映画を観覧された一宮市以外の地域の方から、地元での上映会を開催されたい旨の相談も頂きました。)

40周年記念企画を行いました!!

本当にたくさんのエールを頂きました。心から感謝致します。

当日はアンケートをお配りしましたが、たくさんの方から本当に好意的なご感想やエールを頂きましたのでほんの一部ですが、ご紹介させて頂きたいと思います。

- ★歌い出した瞬間、仲間たちのパワーに鳥肌が立ちました。(ステージ)
 - ★長時間の上映を忘れるくらい、生きる力を頂きました。(星に語りて)
 - ★1つ1つの積み重ねが今の姿になっていると感じました(スライド)
 - ★人として向き合う事の大切さが心に残りました。(夜明け前)
- 本当にたくさんの方がこれからも共に歩もうとのご意見を下さいました。



40年の歴史を20分に凝縮 記念スライド(動画入り)を作りました



今回、きそがわ福祉会40周年を記念して、きそがわ福祉会のこれまでの歩みを振り返るスライド「障害福祉諸制度ときそがわ福祉会の40年」を作り、上映しました。これさえ見ればきそがわ福祉会の概ね全てが分かる、ということ意識して、設立母体の「ねっこの会」の歴史から「ひも解く」内容が20分にギュッと凝縮された、とても内容の濃い作品となっています。

まだご覧になっていない方がいらっしゃいましたら、是非一度ご覧頂ければと思います。

また今回一緒にスライド作りに携わって下さり、何度も長時間の打ち合わせにお付き合い頂いた(有)トライメディアさんとご担当の岡部さん、本当にありがとうございました。3月10日当日にも、ステージでのインタビューで会場を優しく盛り上げて下さいました。ありがとうございました。

さあ! 次の10年、20年に向かって!

40周年を迎えたきそがわ福祉会ですが、まだまだこれでゴールな訳ではありません。50周年、60周年に向けて、次の10年、20年を積み重ねていきます。今回の記念企画のねらいの1つにもありましたが、現在、法人所有地に新拠点として、生活介護、単



独型短期入所、児童発達支援センターの総合的な福祉拠点として、「(仮)一宮北部総合福祉センター」の建設を計画しています。

次の10年、20年に向け、これからも地域の皆様、協力者の皆様と共同して、この地域にとって大切な存在だと思って頂けるよう、皆様と共に育っていきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願い致します。



旧優生保護法の被害者の方々の取り組みについて

＜優生保護法と優性思想＞

1945年に第2次世界大戦が終わり、世界的潮流の一つで、「国を強くするためには強い人や優れた遺伝子を残す・・・」という誤った思想(優生思想)が広まり、日本においても、1948年に施行された旧優生保護法(1996年まで続く)により、多くの障害のある人の「強制不妊手術」や「妊娠中絶」が行われました。※津久井やまゆり園事件の被告も、この考え方を持っていたと言われています。

強制不妊手術	本人同意無し	16,475人
	本人同意あり	8,518人
妊娠中絶		58,972人
合計		83,965人

← 1949年から1996年までの48年間の、旧優生保護法の被害者の方の数 (2018年5月24日厚労省資料)

＜国内でのその後の取り組み＞

- ◆1996年 優生保護法が母体保護法にかわる
※障害団体や女性団体などの訴えが実る。障害のある人を差別する条文は削除される。
- ◆1997年 優生手術に対する謝罪を求める会が発足
- ◆2017年 日弁連が、旧優生保護法でおこなわれた手術などへの国の補償などを求める意見発表
※その後、全国で20名の方が勇気を持って、国に対する裁判を決意(現在も存続中)
- ◆2019年 「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律」が4月に成立
※子どもを持つ権利、持つか持たないかを選ぶ権利を奪われ心も傷つけられた行為に対して「一時金320万円」はあまりにも低く、立法府の人権意識が問われるという見解(JD等)が出されている。

きょうされん第42回全国大会 in あいち

10月25日(金)・26日(土)開催!!



きょうされん第42回全国大会を、愛知の地で開催するのは2022年の第25回大会以来、17年ぶり、4回目の開催になります。共同作業所はじまりの地あいちから、地域とつながり、全国の仲間とつながり、半世紀のあゆみを未来へつなぐ。そんな全国大会となるよう、大会事務局及び実行委員会は準備を進めています。障害のある利用者・その家族・支える職員、関係者などが全国の経験に学び交流を深める場ともなる、この大会が国、並びに愛知の福祉の更なる前進につなげたいと願っております。

きょうされん第42回全国大会 in あいち に対するご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

大会当日は、障害のある方やその関係者などが全国から約3,000名、名古屋の地に集まります

来場者へのサポート・イベントのお手伝い等に携わって下さるボランティアの方を大募集しています。
また協賛金も募っています。
個人協賛金1000円、団体協賛金1000円、5000円
ご協力をお願いします。

△連絡先きょうされん愛知支部事務局
☎0801478216916

新規正規職員オリエンテーションを行いました

3月30日に新規正規職員オリエンテーションを行いました。

学校卒業後に初めて正規職員として、きそがわ福祉会に入職される3名の方と、非常勤職員から正規職員となった職員、昨年度途中より入職された職員、合わせて7名の正規職員さんの初顔合わせの日となりました。

オリエンテーションの前半は辞令の交付と、自己紹介から始まり、採用時の事務手続きの説明、現在の法人の状況について説明・質疑・交流を行いました。

後半は、法人基本理念をふくらす学習交流時間ということで、「発達保障とは」・「障害者諸制度ときそがわ福祉会の40年」の二つのテーマについて学び、交流を行いました。これからも共に学び、共に助け合い、未来を切り拓いていきましょう。



5月1日第3回オリエンテーション

柳瀬 康貴

所属：北方あすなろ作業所
趣味：野球観戦
モットー：「誰に対しても敬意を持って接する」
ひとこと：仲間の皆さんに毎日楽しく通ってもらえるようにサポートしていきます。よろしくお祈り致します。特技は落語です！！

竹中 敬恵

所属：黒田ドリーム作業所
趣味：サッカー観戦、旅行
モットー：「初心忘るべからず」
ひとこと：初めは分からないことばかりで不安もありました。これからは仲間・職員たちから信頼される支援員として成長していきたいです。

増田 紗帆

所属：第二きそがわ作業所
趣味：カフェ巡り
モットー：「誠心誠意」
ひとこと：今年度より働かせてもらうことになりました。色々な事に挑戦して学んで頑張っていきたいです。よろしくお祈り致します。



この度、新たに7名がきそがわ福祉会の正規職員となりましたのでご紹介いたします。

仙石 千春

所属：わかばドリーム作業所
趣味：羊毛フェルト
モットー：「己に打ち勝つ」
ひとこと：わかばドリーム作業所で看護師として勤務しています。仲間の皆さんが、健康で安全に作業所で過ごせるように努めたいと思います。

前島 晃子

所属：フラワー玉の井
趣味：体を動かすこと
モットー：「keep smiling」
ひとこと：明るい笑顔で仕事に組み大きく成長していきたいと考えています。今までの経験を活かしつつ心機一転頑張りますので、よろしくお祈り致します。

伴 真

所属：第二きそがわ作業所
趣味：ヨガ、音楽、アート
モットー：「継続は力」
ひとこと：これまで医療関係と併設の高齢者施設で働いてきました。心機一転頑張ります。よろしくお祈り致します。

吉原 憲司

所属：わかばドリーム作業所
趣味：ゲーム、野球観戦
モットー：「生き抜く力は息抜く力」
ひとこと：福祉関係のお仕事は経験が無く初心者です。焦らずゆっくりとコツコツ色々な事を経験し勉強出来たらと思います。これから仲間を思い、仲間が何を求めているのか一人一人親身になって支援していこうと思います。

玉の井ホーム

玉の井ホームは、3つの住居が隣接しており、それぞれ5~8名の方が利用されています。しかし、全員が毎日顔を合わせているわけではないため、毎月の企画が楽しい時間を共有する大切な機会となっています。企画には、季節を感じるものや誕生日会といった、一人の利用者にスポットを当てたものがあります。例えば、2月は鬼の格好をした職員に豆の代わりにカラーボールを投げ、節分の豆まきを楽しみました。3月は誕生日の利用者がいたため、お祝いの歌を歌い、利用者職員と一緒にひな祭りの菱餅を模した三色ゼリーを完成させ、食べました。新年度からはこのような企画に加え、個別の取り組みも行なっていきます。その様子もお伝えしていくので、お楽しみに！



鬼が来たぞー！！



三色ゼリー完成までもう少し(^_^)

ぬくもりホーム

ぬくもりホームの利用者は、他のホームと比べると若干年齢が高めの人が多いホームです。昨年は、2名の利用者が病気で入院をしてしまいました。そのため今年は、皆が健康に過ごすことを目標に体力づくりを始めています。毎日、希望者では有りますが、階段を使っての昇降運動を100回行ったり、登り降り5往復したりしています。元気にかけ声を出して行っているため、「一緒にやろう」と思う人が自然に集まってきます。そんなこともあってか、この冬は12月に胃腸風邪が流行ったものの、体調を崩す方はいませんでした。小さな積み重ねではありますが、みんなで元気に過ごせるように頑張っています。そして、ゴールデンウィークには、毎日の成果を発揮しにハイキング、併せて美味しい物を食べに出掛けます。いい天気だといいな♪

